

1 はじめに

本校は、行事や常任委員会が教師主導で行われていた。そのため、生徒が「自分たちで学校を創り上げている」という意識をもてるように改善を行った。定期的にリーダー同士による集会を設け、共有や連携を図ることで自治的な活動を促すよう取り組んできた。

2 資料（実践事例、写真等）

(1) 中央委員会

常任委員会が行われる前後に中央委員会を設けた。中央委員会には、生徒会役員と各常任委員会の委員長が出席し、生徒会長主導のもと運営した。中央委員会では、次の常任委員会の活動内容や話し合うテーマが伝達される。委員長は担当教員と活動内容を共有し、生徒主体で委員会活動が行われるように工夫した。



(2) 生徒総会

生徒総会に向けて各学級からの意見を生徒会が集約し、学校に要望書を提出した。また、生徒会役員から「ウェルビーイングな滑川中を目指して」というテーマを投げかけ、各学級でできることは何かを話し合うようにした。話し合い後、文化祭にて進捗状況を報告する場を作ることで、実践が継続できるように工夫した。



(3) 潮風祭（文化祭）

7つの部門に分け、実行委員を募った。さらに部門ごとに、部門長や副部門長、学年ごとのリーダーを選出した。また、部門長や実行委員長、生徒会役員が集まる機会を設け、各部門の進捗状況を把握したり、部門間の連携を図ったりし、協力して創り上げられるように工夫した。



3 成果と課題

(1) 中央委員会を定期的に設けたことで、生徒主体で活動ができた。今後は、委員長と担当教員の連携をより密にし、「学校がより過ごしやすくなるために自分たちが活動している」という実感を持たせたい。

(2) 生徒総会では、積極的に意見を発表する生徒が多く、活発な議論が行われた。今年度は、生徒からの要望を受けて、新たな紺色のTシャツを作り選択できるようになった。生徒たちがより過ごしやすい環境を整えられるように、こまめに生徒たちの要望を募ったり、後期にも生徒総会を設けたりするなど工夫していきたい。

(3) 文化祭では、部門長や実行委員長の集会を設けたことで、部門間の連携を図ることができた。部門ごとの集まりを周知したり、活動内容を提示したりすることが教員主導であるため、今後は部門長を中心に、企画や運営をできるようにしていきたい。